

横尾議員 私からは、行政評価支局の指摘に対して、町の考えをお聞きします。先月 11 月 7 日の徳島新聞に「南海トラフ地震、牟岐町の対策に不備」という見出しで記事が掲載されました。総務省四国行政評価支局により、南海トラフ地震への備えに問題があるとして、町に対し改善措置を取るよう通知した、とあります。耐震性の不明な役場庁舎を津波避難ビルに指定している点や全国瞬時警報システムや防災行政無線を津波で浸水する 2 階に設置していた点が指摘されています。そして、記事の中で仁田総務課長が「指摘を受けて対策を検討せざるを得ないが、方針は決まっていない」というコメントしています。私もそうですが、この記事を読んだ住民は不安を覚えたと思います。また、19 日の徳島新聞に「生命守る意識欠如」という、ある意味ショックを受ける見出しで、町の防災に対する認識を非難する記事が掲載されました。この内容も住民の不安が増す記事でした。それぞれの指摘を受け、町の見解はどうか、今後の対策等はどうしていくのか、また、住民に対して説明をする必要があると思いますが、町の考えはどうかのでしょうか。お答えください。つぎに職員及び職員採用について質問します。職員採用については、防災施策、緊急時等、また、財政面から手当等を考慮すると、私は町内地元からの採用が望ましいと思いますが、町の考えはどうかのでしょうか。このところ、職員採用が続いていますが、現職員の町外通勤者の人数や通勤手当支給基準等については、どうなっているのでしょうか。また、通勤手当受給者の中で最高年額はいくらですか。最後に緊急時における町外通勤者の対応や体制はどうなっているのでしょうか。以上、質問します。

杣富議長 福井町長。

福井町長 横尾議員のご質問にお答えいたします。まず行政評価支局の指摘についてです。これは、先ほどの樫谷議員の質問と殆ど重複しているのですが、改めて答えさせていただきます。客観的な判断とすれば、行政評価支局、言われるとおり、あるいは、徳島新聞が言われているとおり、必要な耐震性がない

建物を津波避難場所に指定することは、適切でないと考えています。牟岐町の場合は、周辺の方々、高齢者の方が多いということもありまして、避難場所は、今の役場が一番良いのだと、何とか役場で避難できないかというふうなご要望もあったということもありまして、また、現実的には、来たるべき津波が一番新しく来る津波が、南海トラフ地震とは限らないということもありまして、大地震動後、あるいは、地震動後に建物が建っていれば避難できるのではないかということで、避難場所として置いているというふうな状況です。今後の対応ですが、12月20日、津波避難訓練がありますので、その時に皆さん方にお集まりいただきますので、その場で事情を説明して、適切な対応を取ってまいりたいということです。それと、職員採用についてですが、これも議員の言われるとおり、あるいは、皆さん、防災対応、牟岐町の理解度からして、当然、地元の方を採用すべきであるというふうに考えていると思います。多くの市町村は、地元出身者に一定の配慮をしているところが多いと思います。しかしながら、過疎化の進む中、若者が減ってきているということもありまして、できるだけ優秀な職員を採用したいということで取り組んでいるところであります。したがって、牟岐町といたしましては、そういう両者の考え方もありますので、お一人お一人若者の将来もありますので、真剣にその都度、協議しながら、みんなで話し合いながら、進めている状況です。

杵富議長 仁田総務課長。

仁田総務課長 それでは、横尾議員のご質問の中で、町長の答弁に一部補足もさせていただきながら、お答えさせていただきます。防災に関するご質問の中で役場の防災無線とジェイアラートが2階の浸水する場所に設置しているというご質問です。確かに浸水するところにあるわけですが、今の役場の体制として、総務課2階にありまして、通常の災害、津波だけではありませんので、台風等もあります。防災無線の設備は日常業務必要と近くに置いておかないと、すぐに対応ができないということもありまして、ジェイアラートの端末につき

ましても、今現在、2階に設置をしています。ジェイアラート本体は、3階にありますので、浸水するところではありません。2階に置いているのは、その端末です。それと、もう一つ職員の勤務状況の町外から通勤している人数はというご質問でした。一般職71名中11名が町外から通勤しているということになっています。通勤手当につきましては、例規集にも載っていますが、牟岐町職員の給与に関する条例の中の第10条の3で定めていまして、現在、支給額のもっとも多い職員は、月額29,800円を支給しています。それと、災害と非常時における職員の連絡等ですが、これにつきましては、職員に限定しての連絡方法として、メールシステムが構築されていまして、警報の発令や解除、また、職員の招集につきまして、そのシステムを使って、即時に連絡ができるようになっていきます。

杣富議長 横尾議員。

横尾議員 新聞に記載されたということで、私の方が牟岐町のイメージダウンであるということが言えるのではないかと考えていますし、また、国が進めています、移住定住という政策に関してもマイナスのイメージを持たれてはいけないということもありまして、質問をさせていただいたのですが、先ほど町長が避難訓練のときに説明をしますと言いましたが、その訓練会場にいる方しか分からないということもありますので、そういったことの周知を考えていただきたいというふうに思います。以前にジェイアラートは、学校の方に持っていくとかいうことではなかったのでしょうか。その辺りは、また後でお答えいただきたいと思います。それと、総務課長が言いましたけど、3階に本体があるということですが、建物そのものが耐震ができていないというところ、後は台風とかそういったものに対応ができるようにと身近にあるということのも分かりますが、一番問題は耐震ができていないというところが問題だと思いますので、もう一つ役場の移転も含めて、そういうところの検討もお願いしたいということを考えていただきたいと思いますし、また、ご答弁いただきたいと思います。

それと、職員に関して、月額29,800円、町外通勤者、11名いる中で、月合わせたら300千円近い費用が発生しているということになるので、今回も募集をしているという中で、町内外、県外からも30名以上の応募がきているということもお聞きします。今、安倍政権下では、アベノミクスで効果を上げているところは大企業しかないのです。そうなれば役場という職場というのは、もの凄く魅力がある安定した職場となりますので、ただ、私が言いたいのは、役場の職員というのは、公僕の立場であります。愛町心を持って努めて仕事に励んでいただきたいということ、また、ますますこれから町外からの応募で採用する人材が増えていく中で、生活圏の違いもありますし、町内で消費していくという回数が少ないということもあって、職員教育において愛町心も教えていただきたいと言うか、指導もしていくということも、これはこういうふうな指導をしているのかもお聞きして再問させていただきます。

杣富議長 福井町長。

福井町長 役場の耐震性の問題ですけど、先ほども樫谷議員のご質問にお答えいたしましたように、耐震改修は、耐震診断してできないことはないと思います。ただ、コンクリート強度が非常に低いというふうに理解していますので、コンクリート強度を上げるということは、非常に困難です。殆ど改築するまでもいかないでしょうけど、非常に大きなお金がいるということもあります。設備も古くなっていますので、移転するのがベストな選択であるということで、移転地を探しているということです。ただ、役場というのは、通常は一般の町民の方が頻繁に利用されるというところですから、高台に移転したのでは、先ほども一山議員のご質問もありましたように、今度バスを走らせなければいけない。もっと便利に使えなくてはいけないということもありますので、できるだけ町民の皆さんの近くにあって、いざとなったら避難所になるような施設、場所がいいのではないかと現時点で私が考えているのであって、適地があればご提案いただきたいですし、また、他に良い案があったらご享受いただきたい

と思います。それと、職員採用ですけど、これも牟岐町の方であれば、皆さん共通した認識で町内の方から選択できないか、採用できないかというふうに考えていると思うのですが、最初から限定して募集するのであれば、広報する場合に牟岐町の方に限るというふうな書き方をして広報するかどうかということも含めて考えていただくと、先ほど、横尾議員が牟岐町の新聞に載ることによって、牟岐町の評判が落ちたということを言われましたけど、そういうふうな新規採用職員は、牟岐町の方に限るのですよという、こういう報道は、新聞報道された場合、どういうふうなイメージを皆さんが持たれるかということも合わせて考えていただきたいと思います。それで避難マップの再作成も含めて、12月20日の防災訓練の後の役場の避難所指定がどうかも含めて、皆さんと協議いたしまして、その結果は、広く町民の皆さん全体に広報したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

杣富議長 仁田総務課長。

仁田総務課長 横尾議員の再問で牟岐町に対する職員の意識と言いますか、そういうのをどうしていくかということですが、10月から若手職員の研修というのを始めていまして、各課の業務について、月1回、それぞれ総務課から順番に担当しまして、それぞれ業務、基本的な部分を役場に入って10年ぐらいまでの職員を対象に行っています。その中で牟岐町についての状況も知ってもらい、今の役場の運営と言いますか、そういうようなものも知ってもらいたいというふうに思います。役場の中でいるだけでなしに、日常業務の中でも町内あっちこっち回ってもらって、町の状況がどうなっているかということも若い職員に知ってもらいたいということも必要ではないかというふうに思っていますので、今回、3月まで各担当課が、課が担当して研修しています。それらも含めて今後、どういうふうな研修をしていくかということも考えていきたいと思っています。

枅富議長 横尾議員。

横尾議員 今、仁田課長から研修があるということなので、ぜひその機会を捉えて牟岐町の愛町精神ということを育んでいただきたいと思いますし、牟岐町の職員は少数精鋭で、よくやっている方だと私は考えます。ただ、矢面にされるというか、町のイベントなんかで若手役をされても、これはボランティアではないと、仕事の一環であるというふうな捉え方をされていますので、そういった面でも、もっと公僕であるという自覚を持って取り組んで欲しいと思います。それと、町長が言いました、耐震を今さらこの庁舎をお金をかけてということは臨んでいませんで、なるべく道筋を先のことをこうやっていきますというふうなことを示して町民を安心させて欲しいというふうに思いますので、ぜひそういったことを各課長とも話しをしていただいて検討すべきであるということで終わっていますので、早急に海部病院の移転の跡地に持つていくのであれば、そういった話も、もっと進めて欲しいと思います。